

区民検討会議（ワークショップ）

実施結果

【概要版】

目 次

1 目的	1
2 実施概要	1
3 参加者の募集方法と参加者数	2
4 検討会議スケジュール	3
5 テーマごとの検討会議の結果	
(1) 低炭素社会の実現	4
(2) 循環型社会の実現	5
(3) 自然環境と生物多様性の保全	6
(4) 快適で健康に暮らせる生活環境の実現	7
(5) 『環境力』の高い人材の育成	8
(6) パートナーシップが支えるまちの実現	9

1 目的

この区民検討会議は、板橋区環境基本計画（第三次）を策定するにあたり、板橋区の環境保全のために区民が「1人でできること」「10人でできること」「区全体でできること」を検討していただき、そこで出た意見を参考として同計画における“区民の取り組み”に反映させることを目的としています。なお、会議では平成27年3月に公表した板橋区環境基本計画（第三次）の策定に向けた「中間まとめ」を踏まえて、6つの“基本目標”を小テーマとして設定しました。

2 実施概要

「いたばしの環境を良くするために私たちができることを考えよう」をテーマに、6つの基本目標ごとに2つ程度の小テーマを設定し、区民が板橋区の環境のために“1人でできること”“10人でできること”“区全体でできること”について、区民同士がワークショップ形式で検討いただきました。

開催日時	会場	テーマ
平成27年4月28日（火） 18：30～21：00 【参加者数：18名】	板橋区役所 南館2階 人材育成 センター	テーマ①：低炭素社会の実現 ・エネルギーをつくる・減らす（省エネ・再エネ） ・環境負荷の少ない建物・交通手段 テーマ②：循環型社会の実現 ・ごみを減らす ・再使用・リサイクル
平成27年5月12日（火） 18：30～21：00 【参加者数：17名】		テーマ③：自然環境と生物多様性の保全 ・自然（緑、水、生きもの等）を守る・つくる ・自然とふれあう、活用する テーマ④：快適で健康に暮らせる生活環境の実現 ・暮らしやすい生活環境（騒音が無い、空気がきれい、きれいな水質等）を守る・つくる ・美しい景観や街なみを守る・つくる
平成27年5月26日（火） 18：30～21：00 【参加者数：23名】		テーマ⑤：「環境力」の高い人材の育成 ・環境に配慮した行動ができる人を育てる ・環境情報をわかりやすく発信する テーマ⑥：パートナーシップが支えるまちの実現 ・環境保全活動への参加・協働のしくみをつくる まとめ ・イチオシの取組と私の役割

3 参加者の募集方法と参加者数

板橋区内に在住、在勤、在学する年齢18歳以上の方を対象に、広報いたばし、区ホームページ等を活用して公募を行った結果、第1回18人、第2回17人、第3回23人、延べ58人が参加しました。

【区民検討会議参加者数内訳】

年代	第1回			第2回			第3回			合計
	性別		計	性別		計	性別		計	
	男	女		男	女		男	女		
10代	0	3	3	0	4	4	0	4	4	11
20代	0	2	2	1	1	2	1	4	5	9
30代	1	0	1	0	0	0	3	0	3	4
40代	2	0	2	3	1	4	2	1	3	9
50代	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
60代	2	1	3	2	1	3	2	1	3	9
70代以上	5	2	7	3	1	4	3	1	4	15
合計	10	8	18	9	8	17	12	11	23	58



(話し合いの様子)



(発表の様子)

4 検討会議スケジュール

項目		時間	内 容
全体ガイダンス		10分	○開会あいさつ ○主旨説明（区民検討会議の役割・位置付け等の説明） ○ワールドカフェ形式の手順・ルールの説明
1 つ 目 の テ ー マ	第1ラウンド	20分	○自由討議（意見を付箋に書き込み、模造紙に貼り付けながら話し合い）
	メンバーチェンジ	5分	テーブルホスト1～2名を残し、残りのメンバーは別テーブルに移動
	第2ラウンド	10分	○ホストが第1ラウンドの討議内容の紹介 ○自由討議（意見を付箋に書き込み、模造紙に貼り付けながら話し合い）
	メンバーチェンジ	5分	最初のテーブルに戻る
	第3ラウンド	10分	○ホストが第2ラウンドでの討議内容の紹介 ○まとめ作成
	討議結果の発表	10分	○グループの代表者が討議内容を発表
休憩		5分	
2 つ 目 の テ ー マ	第1ラウンド	20分	○自由討議（意見を付箋に書き込み、模造紙に貼り付けながら話し合い）
	メンバーチェンジ	5分	テーブルホスト1～2名を残し、残りのメンバーは別テーブルに移動
	第2ラウンド	10分	○ホストが第1ラウンドの討議内容の紹介 ○自由討議（意見を付箋に書き込み、模造紙に貼り付けながら話し合い）
	メンバーチェンジ	5分	最初のテーブルに戻る
	第3ラウンド	10分	○ホストが第2ラウンドでの討議内容の紹介 ○まとめ作成
	討議結果の発表	10分	○グループの代表者が討議内容を発表
閉会		15分	○閉会あいさつ ○アンケート記入

5 テーマごとの検討会議の結果

(1) 低炭素社会の実現 ～効率的なエネルギー利用による温室効果ガスの排出が少ないまちづくり～

このテーマでは「エネルギーを減らす・つくる」及び「環境負荷の少ない建物・交通手段」の2つの観点を設定し議論を行いました。

「エネルギーを減らす・つくる」の観点では、「1人でできること」として、太陽光発電の導入、緑のカーテンや植栽の導入等が挙げられ、「10人でできること」として、会社や学校単位での環境行動チェックシートの実施等が挙げられ、「区全体でできること」として、自然エネルギーや未利用エネルギーの導入（太陽光パネル普及、廃食油のBDF化、小水力発電）、学校におけるエネルギー教育の推進等が挙げられました。

「環境負荷の少ない建物・交通手段」の観点では、「1人でできること」として、車から公共交通（バスや電車等）への利用転換、断熱サッシ等の導入等が挙げられ、「10人でできること」として、カーシェアリングや自転車シェアリングの利用等が挙げられ、「区全体でできること」として、次世代エネルギーや電気自動車の普及、マイカー規制、大規模開発における緑化（樹木）の義務化等が挙げられました。

	1人でできること	10人でできること	区全体でできること
エネルギーを減らす・つくる (省エネ・再エネ)	<ul style="list-style-type: none"> ○LEDライトへの切替 ○生ゴミの堆肥化 ○花や作物を植える ○屋上緑化 ○エアコンのフィルターをこまめに掃除 ○扇風機とエアコンを両方使う ○こまめにスイッチのon,off ○自宅に太陽光発電 ○消灯時間を早める ○夏は軽装、冬は厚着 ○各戸に電気使用メーター ○省エネ器具の積極的導入 ○電気・ガス・水の節約 ○断熱ガラスに変える ○緑のカーテン、打ち水 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園清掃などで出たゴミでバイオマス発電 ○生ゴミの堆肥化 ○子供たちの体験・教育（自然に触れさせる） ○風呂は順番に間をあけずに入るようにする ○大勢でいるときは同じ部屋にいるようにする ○省エネデーをつくる ○エコチェックシートを会社、学校単位で実施 ○公道の緑化 ○公共場所の冷暖房の温度を決める（節電） 	<ul style="list-style-type: none"> ○LEDの大幅採用 ○自然エネルギー（風力、地熱、太陽光等々）の導入・普及 ○エネルギーコストを具体的数値で理解する ○サマータイムを提唱 ○インセンティブを与える ○小学校教育に省エネ教育 ○エコイベントの実施 ○24時間365日稼働を制限 ○区民発電所（小水力発電） ○足踏み発電の設置 ○廃食油を回収しBDFに精製 ○雨水タンクの設置 ○ゴミ発電 ○公共施設の節電
環境負荷の少ない建物・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテンの普及 ○冷暖房の設定 ○公共交通機関（バスや電車等）の転換 ○サイクリング・ロード ○断熱サッシ ○集合住宅の推進 ○雨水ますの活用 ○自然エネルギーの有効活用 ○家庭菜園の活用 ○近くは徒歩 ○屋上緑化 	<ul style="list-style-type: none"> ○街にベンチ ○記念ベンチ（間伐材）の設置 ○小型バス ○カーシェアリング（EV） ○自転車シェアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車専用道路の整備 ○次世代エネルギーの導入推進 ○スマートシティの推進 ○カーシェア、サイクルシェア ○緑のカーテン拡大 ○マイカー規制 ○電気自動車の推進 ○ハイブリッドカーの普及 ○大規模開発には緑（木）を義務化 ○昼間の間引き運転 ○ライドシェア ○耐用年数の長期化 ○BDFの活用 ○LED照明への変更

(2) 循環型社会の実現 ～ごみの発生抑制と資源を循環利用する社会システムづくり～

このテーマでは「ごみを減らす」及び「再使用・リサイクル」の2つの観点を設定し議論を行いました。

「ごみを減らす」の観点では、「1人でできること」として、買物時の簡易包装の依頼、マイバッグ・マイボトル・マイ箸の利用、炊事における配慮（食材は必要な分だけ買う、食べ残しを減らす等）、生ごみの堆肥化等が挙げられ、「10人でできること」として、食品小売業者による余剰食糧の寄付（いわゆるフードバンク）、地域単位での土づくり（街路樹、花壇、ハーブ等）等が挙げられ、「区全体でできること」として、ごみ袋の有料化、小学校等へのごみ教育の推進等が挙げられました。

「再使用・リサイクル」の観点では、「1人でできること」として、フリーマーケットの利用、SNS等を活用した不用品の情報交換等が挙げられ、「10人でできること」として、有志によるフリーマーケットの実施、地域単位での集団回収への参加等が挙げられ、「区全体でできること」として、生ごみ堆肥化等の積極的PR（農業まつり等）、廃食油のBDF化等が挙げられました。

	1人でできること	10人でできること	区全体でできること
ごみを減らす	<ul style="list-style-type: none"> ○リサイクルプラザの活用 ○マイバッグの活用 ○買物時の簡易包装の依頼 ○牛乳パック、紙パック、電池を回収BOXへ ○食べきれぬ分だけ食材を買う ○マイボトルやマイ箸の利用 ○風呂敷の活用 ○ハンカチ、手ぬぐいの利用 ○食べ残しを減らす ○修理して使う ○廃食油の回収 ○生ごみの堆肥化 ○土に還るものを選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ○マイボトル、マイ箸 ○環境推進ボランティアの育成 ○果物の皮は干してから捨てる ○マイバッグの活用 ○食品小売業者による余剰食糧の寄付 ○土に還る資材で物を作る ○マンション・自治会・町会、共同ごみを出してお金をもらう ○地域コンポスト ○清掃活動の実践 ○地域単位での土づくり（街路樹、花壇、ハーブ等） ○計り売り(酒、醤油等)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみを出さない売り方 ○ごみ袋の指定化、有料化 ○包装紙、袋、プラスチックの入れものの有料化・ポイント化 ○ごみの堆肥化 ○再利用できるものをポイント制にして利益にする ○メーカー、販売店に過剰包装の抑制を働きかける ○携帯灰皿の義務化 ○ポイ捨の罰金・罰則 ○商店街リサイクル ○幼稚園、小学校低学年生へのごみ教育の推進
再使用・リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○分ければ資源、混ぜたらごみ、というように分別する ○ペットボトルをマイボトルとして利用する ○枯葉の堆肥、コンポスト ○フリーマーケットの利用 ○雨水タンクの利用 ○再使用・リサイクルの実際のおモチャなどを見せる ○SNS等を活用して不用品を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ○フリーマーケットの活用 ○5Rの推進 ○交換会の実施 ○地域単位での集団回収 ○棄てるエンジンオイルで銭湯を沸かす ○燃えるごみで湯を沸かす 	<ul style="list-style-type: none"> ○牛乳パックの回収 ○学校給食の食べ残しの堆肥化 ○ビン、缶、PETの下取り ○生ごみ堆肥化のPR ○コンポスト ○紙の資料の再利用 ○ペットボトルや缶のプルタブの回収 ○廃食油を回収しBDFに精製 ○リサイクルショップを増やす ○スーパー、家庭、企業のリサイクルネットワーク ○食品のリサイクル ○乾電池収集場所を増やす ○ポイント制、表彰制 ○リサイクル品種を増やす ○フリーマーケット ○期限切れ寸前食品の再配布 ○ごみ発電のコジェネ化

(3) 自然環境と生物多様性の保全 ～緑と水と生きものに囲まれた都市空間の創造～

このテーマでは「自然を守る・つくる」及び「自然とふれあう、活用する」の2つの観点を設定し議論を行いました。

「自然を守る・つくる」の観点では、「1人でできること」として、家庭での緑のカーテン・家庭菜園等の実施、自然保護について勉強（活動団体への参加）等が挙げられ、「10人でできること」として、地域でのビオトープづくり（廃校等の活用）、動物や植物等の保護活動グループの結成、社寺林や公園の緑についての勉強会や自然観察会の実施、地域住民による公共施設等の花壇づくりの管理等が挙げられ、「区全体でできること」として、地域の緑についての教育機会の設置、緑の保全に関する区の方針づくり（条例等）、緑のカーテンの普及等が挙げられました。

「自然とふれあう、活用する」の観点では、「1人でできること」として、公園等に遊びに行くこと、自然体験ができる場所を散策（例：湧水を巡り崖線を歩く）等が挙げられ、「10人でできること」として、地域で確認された生き物の情報の共有化等が挙げられ、「区全体でできること」として、区内の自然を見学するツアー、環境教育における自然体験の導入等が挙げられました。

	1人でできること	10人でできること	区全体でできること
自然（緑、水、生き物等）を守る・つくる	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテンづくり ○職場に花を植える ○自然保護について学ぶ ○自然保護団体に入る ○生物、植物を好きになる ○植物・昆虫の観察 ○ごみを拾うようにする ○花壇の整備 ○一鉢運動・清掃 ○家庭菜園 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でビオトープを作る ○地域の緑を手入れする ○社寺林や公園の緑についての勉強会 ○学校の花壇を手入れする ○公共施設等に花を植える ○「生物多様性」を調査する ○地域で緑を守る活動 ○区内公園の見学会 ○公園の植物観察ツアー ○湧水の紹介 ○生き物、植物などの環境保護活動グループを作る ○自然観察会 	<ul style="list-style-type: none"> ○樹木や花の名札をつける ○庭・ベランダの使い方指導 ○開発規制（緑の保全）条例 ○地域教育の場と機会を設ける ○植物園などの施設の宣伝 ○小中学校で農業体験、小動物の飼育 ○活動のポイント制 ○公園で自然観察を開催 ○板橋区の森・里山で森林教室、体験林業、森林散策等の開催 ○緑のカーテン ○河川の整備 ○廃校や空き地にビオトープや林、里山のようなものを作る
自然とふれあう、活用する	<ul style="list-style-type: none"> ○エコツーリズムに参加する ○子供を緑の公園で遊ばせる ○木の下でランチ ○植物園に行く ○ガーデニングを更に広げ、通りがかりの人たちの目を楽しませる ○崖線を歩く（湧水体験） ○体験したり、知的好奇心を満たしてくれる散歩道、遊歩道を歩く ○フィールドアスレチック ○家族で楽しめる仕組み作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテンを公園などで育て、そこで収穫したゴーヤやヘチマを共同炊事する ○生き物情報の共有 ○同じ趣味の仲間との生き物や植物の会話の場をつくる ○養蜂 ○マンション等の付近に植物を植える ○花壇ボランティアなどによる公園の整備 ○日光市にある板橋の森をもっと活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ○区とNPOが協働で自然教室を開く ○区に森の幼稚園を作る ○人が入れる川の整備 ○ボランティア情報発信 ○観察器具の貸し出し ○釣りができる公園の整備 ○公立学校の敷地を有効活用 ○農地の保全 ○区のイベントに川の周りの自然が見られるツアーを作る ○森や木に触れることができるように教育に盛り込む ○畑のレンタルシステム ○環境教育における自然体験の導入

(4) 快適で健康に暮らせる生活環境の実現 ～社会活動に伴って発生する環境負荷の削減と生活環境の向上～

このテーマでは「暮らしやすい生活環境（騒音がない、空気がきれい、きれいな水質等）を守る・つくる」及び「美しい景観や街並みを守る・つくる」の2つの観点を設定し議論を行いました。

「暮らしやすい生活環境を守る・つくる」の観点では、「1人でできること」として、車から自転車の利用転換、できるだけ洗剤を使わないこと等が挙げられ、「10人でできること」として、カーシェアリングの利用、水質浄化のための（池等への）水草の導入等が挙げられ、「区全体でできること」として、騒音トラブルについて話し合う機会づくり、マイカー規制（曜日によるナンバー規制、地域外車両の住宅地への進入禁止）、生き物が暮らしやすい川づくり（コンクリート護岸改善、水生植物導入等）等が挙げられました。

「美しい景観や街並みを守る・つくる」の観点では、「1人でできること」及び「10人でできること」として、ごみのポイ捨てをしない／ごみ拾い活動への参加、街を知ってもらう活動（街歩きイベント、観光案内等）等が挙げられ、「区全体でできること」として、区民が美しいと感じる場所を募集発表する機会づくり、建物の色・高さや小規模集合住宅開発のルールづくり、廃校や空き家の緑地への転換、コンクリート塀から生垣への作り替え支援等が挙げられました。

	1人でできること	10人でできること	区全体でできること
暮らしやすい生活環境（騒音がない、空気がきれい、きれいな水質等）を守る・つくる	<ul style="list-style-type: none"> ○エコカーへの乗り換え ○自動車に極力乗らない ○自転車や徒歩の利用 ○車から自転車の利用転換 ○省エネに関する知識の周知 ○ごみを出さない、ポイ捨ての禁止徹底、ゴミ拾い活動 ○洗剤をなるべく使わない ○食用油のリサイクル ○水質浄化に貝を用いる ○節水意識を持つ ○生垣をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○共同体で暮らしやすい生活環境を考えていく ○定期的なゴミ拾いの実施 ○水草を植えて水をきれいにする ○公園の清掃活動 ○カーシェアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンクリートの護岸の川を土やヨシなどに変えて生物が暮らしやすいようにする ○声に関する騒音問題の住民同士の対話 ○公園や保存樹の場所の周知 ○生活道路への車両規制 ○自然に触合える公園の整備 ○街の要所にゴミ箱を設置 ○空き地を緑化する ○道路と鉄道の地下化 ○工場の移転 ○工場の植栽を助成で義務化 ○風の道を踏まえたビル建設
美しい景観や街並みを守る・つくる	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみを出さない、ポイ捨ての禁止徹底、ゴミ拾い活動 ○タバコのポイ捨て禁止徹底 ○ゴミ回収所のネットを使い、カラスの害を減少させる ○家の周辺の清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○家の周辺、地域の清掃活動 ○清掃活動を継続させる（学生の力を借りて通学路の清掃活動などを行う） ○町歩きをして町を知ってもらう活動をする。自分の街を好きになってもらう。 ○カーシェアリング（EV） ○自転車シェアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○違法な広告物撤去 ○区民に街の美しいところをアンケートし、集計・発表 ○ワンルームマンション規制 ○風の道を踏まえた街づくり ○建物の色・高さや小規模集合住宅開発のルールづくり ○植樹、植林、公園を増やす ○雨水の積極利用 ○農地保全、緑地率の条例を掲げる ○電柱の地下埋設 ○古い民家の建て替え助成 ○廃校や空き家の緑地への転換 ○コンクリート塀から生垣への作り替え支援

(5) 『環境力』の高い人材の育成 ～環境に配慮したライフスタイルの実現に向け主体的に行動できる人づくり～

このテーマでは「環境に配慮した行動ができる人を育てる」、「環境情報をわかりやすく発信する」の2つの観点を設定し議論を行いました。

「環境に配慮した行動ができる人を育てる」の観点では、「1人でできること」として、地域の環境について学び他者に伝えること、ワークショップ等への参加等が挙げられ、「10人でできること」として、町会等と協力した地域の環境活動（清掃活動等）、有志での活動団体の立ち上げ、事業所における環境部署の設置等が挙げられ、「区全体でできること」として、学校等における環境教育の取り入れ、家族で参加できる環境イベントの実施、エコポリスセンターの環境教育メニューの強化、環境保全に貢献した人や学ぶ人への支援等が挙げられました。

「環境情報をわかりやすく発信する」の観点では、「1人でできること」及び「10人でできること」として、SNSを利用した情報発信、環境イベントの企画、チラシ・回覧板・絵本等の様々な媒体の利用等が挙げられ、「区全体でできること」として、区報における環境情報ページの設置、環境に関する区政情報メールの配信、「環境パトロール隊」（環境に関して見聞きしたことを区民が報告するしくみ）、地域センターにおける環境情報の掲示等が挙げられました。

	1人でできること	10人でできること	区全体でできること
環境に配慮した行動ができる人を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみをなるべく出さない生活をする ○地域の清掃活動への参加 ○地域の環境について学び他者に伝えること ○緑のカーテンづくり ○環境問題に関心を持ち、大人が見本となる行動をとる ○環境に関する学習体験の実施 ○情報の共有、ごみに関することなど知識の蓄積 ○環境団体に入る、ワークショップ・エコ活動への参加 ○自然観察 	<ul style="list-style-type: none"> ○部課を横断した事業所での環境活動のチーム化 ○その地域に見合った環境活動の実施、 ○環境に関する本の紹介 ○環境問題を教育に取り入れる ○身近な生き物調査など自然に触れる ○活動団体を立ち上げる ○勉強会を開く ○老若男女でごみ拾い活動 ○環境教育イベントの実施 ○荒川生態園を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ○エコポリスセンターの活用、紹介 ○エコに関する出張講座実施 ○先進は県・市に学ぶ ○学校の授業に環境教育を取り込む、自発性を高める ○まだ使えるもの(建物)を壊さない ○環境貢献者や学ぶ人間に対して資金助成を行う ○ごみの正しい分別の記載 ○学校にビオトープを作る ○NPOなどの団体との提携 ○議論の場を増やす ○自然体験、植物栽培体験 ○ごみの回収日を減らす ○エコイベントの実施
環境情報をわかりやすく発信する	<ul style="list-style-type: none"> ○チラシや環境新聞、SNS、Youtubeなどでの啓発活動 ○効率的な発信方法を学ぶ ○会話を通して情報の共有 ○基本的な体験学習を積む ○学校での授業を利用したホームページづくりや調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境推進グループの紹介、勧誘で一緒に学んでいく ○絵本やホームページなどの媒体を作る ○イベントを企画、実施する ○回覧板や掲示板で環境関係の情報を提供していく ○授業を利用して環境問題に取り組む ○産学連携 ○こどもワークショップの実施 ○環境マップ作り ○動画を用いた情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○板橋区の災害情報メールの他に環境情報メールを作る ○区報に環境ページを掲載 ○地域センターへの掲示 ○環境保全マスター検定実施 ○情報発信の為の講座設置 ○各々生活を通して効果を実感しているエコ活動を発信する ○「かんきょう観察員」「環境家計簿」など過去の区の事業の成否をチェック ○環境パトロール隊を作り、区役所に報告しやすい仕組み作り

(6) パートナーシップが支えるまちの実現 ～自助・共助・公助の連携による地域環境づくり～

このテーマでは「環境保全活動への参加・協働のしくみをつくる」を観点に設定し議論を行いました。

「1人でできること」として、クリーン作戦等の環境保全活動への参加（個人あるいは家族・地域の仲間への呼びかけ）等が挙げられ、「10人でできること」として、環境活動グループの立ち上げ（講座終了後等）、大人／子供向けのワークショップの開催等が挙げられ、「区全体でできること」として、環境活動団体間での協力・連携のための場や機会づくり、個人や団体の取組の活動支援、環境行動に対するエコポイント制度等が挙げられました。

	1人でできること	10人でできること	区全体でできること
環境保全活動への参加・協働のしくみをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的にゴミ拾いなどの環境保全活動に参加し、周りの人も巻き込む ○家の周りの美化活動 ○自分で調べる、行動する、知らせる、広める ○普段の生活の中で環境貢献できることを探し実施していく ○組織団体に加盟して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の公共の場の美化推進 ○有志による啓蒙活動（児童館等）、環境行動会議への参加 ○子ども対象に長期休み期間にボランティアのイベント作り ○グループの立ち上げ、グループによる働きかけ ○低学年からの環境学習 ○学校との連携で環境活動 ○ワークショップの実施（大人向け、子供向け） ○ボランティアセンターの活用 ○緑を育てる意識を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境活動団体間での協力・連携のための場や機会づくり ○個人や団体の取組の活動支援 ○エコポリスセンターと地域センターとの連携 ○環境行動に対するエコポイント制度 ○環境活動分野ごとの活動紹介 ○エコポリスセンターを通じた学校教育へのアプローチ、環境教育指導 ○イベントの実施 ○町会活動レベルでの環境活動への予算支給の仕組み作り